

構造設計標準仕様

適用は ☒ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 図枠参照
建築場所 図枠参照
- (2) 工事種別 ☒ 新築 ☐ 増築 ☐ 増改築 ☐ 改築
- (3) 構造種別
☐ 木造 (W) ☐ 補強コンクリートブロック造 (CB) ☐ 鉄骨造 (S)
☐ 鉄筋コンクリート造 (RC) ☒ 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
☐ 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) ☐ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
☐ プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC) ☐
- (4) 階 数
地下 階 地上 2 階 塔屋 階
- (5) 主要用途 病院
- (6) 屋上付属物
☐ 広告塔 ☐ 消火タンク t ☐ 機械室 kg
☐ 煙突 ☐ 高架タンク t ☐
- (7) 増築計画 ☐ 有 () ☒ 無
- (8) 付帯工事
☐ 門扉 ☐ 擁壁 ☐ 外構排水溝 ☐ ☐
- (9) 特別な荷重
☐ エレベーター 人乗 (ロープ式) ☐ リフト t ☐ ホイスト t
☐ 倉庫積載床用 kg/㎡ ☐ 受水槽 t ☐ 温水器 kg
- (10) 構造計算ルート
X方向ルト (1) Y方向ルト (1)

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種 類	設計基準強度 $F_c = N / \text{mm}^2$	スランプ cm	備考
1F 壁～RF 床	普通	18 [21 , 24 , 27 , 30 , 33 , 36]	18 以下	
基礎、基礎梁	普通	18 [21 , 24 , 27 , 30 , 33 , 36]	18 以下	
土間コンクリート	普通	18 [21 , 24 , 27 , 30 , 33 , 36]	18 以下	
接コンクリート	普通	[18]	15 以下	
ラップルコンクリート	普通	12 , 15 , 18	18 以下	

(2) コンクリートブロック (CB)

☐ A 種 ☐ B 種 ☐ C 種 厚 ☐ 100, ☐ 120, ☐ 150, ☐ 190,

(3) 鉄 筋

累形鉄筋	種 類	径	使用箇所	継手工法
	☒ S0295A	D10・13・16	構造図に示す	☒ 重ね継手 ☐ ガス圧接継手 (D19以上は適用可)
	☐ S0295B		構造図に示す	
	☒ S0345	D19～	構造図に示す	
丸 鋼	☐ SR235			☐ 特殊継手 ()
溶接金鋼				

(4) 鉄 骨

鋼 材	種 類	使用箇所	現場溶接	備考
	☐ S5400 ☐ SH400A, B		☐ 有 ☐ 無	
	☐ STKM400 ☐ STKM490		☐ 有 ☐ 無	
	☐ SH490A, B ☐ SSC400		☐ 有 ☐ 無	

(5) ボルト

- ☐ 高力ボルト ☐ 普通、F10T ☐ 特殊、S10T認定品 (☐ M12, ☐ M16, ☐ M20, ☐ M22,)
☐ 中ボルト $\phi =$ $\phi =$ 高力ボルトすべり係数試験 ☐ 要 ☐ 否
☐ アンカーボルト S5400 $\phi =$ L= mm ナット (シングル、ダブル)
 $\phi =$ mm
 $\phi =$ mm
☐ スタッダボルト $\phi =$ L= mm

(6) 屋根, 床, 壁

- ☐ ALC版 厚
☐ 折 板 型式 H= 厚
☐ デッキプレート 型式 厚
☐ キーストンプレート 型式 厚
☐ 特殊デッキプレート
☐

3. 地 盤

- (1) 地盤調査資料
☒ 有 (☒ 数地内 ☐ 近隣) ☒ ボーリング調査 ☐ スクエーデン式サウンディング試験 ☐ 表面波探査法
☐ 無 (調査予定 ☐ 有 ☐ 無)
- (2) 地盤調査計画
☐ ボーリング調査 ☐ 静的貫入試験 ☐ 標準貫入試験 ☐ 水平地盤反力係数の測定
☐ 土地試験 ☐ 物理探査 ☐ 平板載荷試験 ☐ スクエーデン式サウンディング試験
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
- (4) ボーリング標準貫入値、土地構造 (基礎・杭の位置を明記すること)

深度	土 質	N 値	標準貫入試験 (B-1)						
			10	20	30	40	50	60	
0									
-1									
-2									
-3									
-4									
-5									
-6									
-7									
-8									
-9									
-10									
-11									
-12									
-13									
-14									
-15									
-16									
-17									
-18									
-19									
-20									
-21									
-22									
-23									
-24									
-25									

別図参照

4. 地業工事

- (1) 直接基礎
☐ ベタ基礎 ☐ 布基礎 ☐ 独立基礎 試験掘 ☐ 有 ☐ 無
長期許容支持力度 kN/㎡ 載荷試験 ☐ 有 ☐ 無
- (2) 杭基礎

杭 種	材 料	施工法	備 考
☐ RC ☐ CPRC ☐ PHC ☐ H鋼 ☒ 鋼管 ☐ 摩擦杭 ☐	CPRC ☐ I 種 ☐ B 種 ☐ C 種) PHC ☐ A 種 ☐ B 種 ☐ C 種) 鋼管 ☐ SS400 ☐ STK400 ☒ STK490 ☐ STK540	☐ 打ち込み ☐ Hyper-MEGAT工法 ☒ 回転圧入 (インジプラス) ☐	大臣認定 第TACP-0591号 第TACP-0592号 平成9年9月24日
☐ 場所打ち コンクリート杭	コンクリート $F_c =$ kg/cm^2 セメント量 主 筋 SD 鉄 筋 HOPP SD	☐ オールケーシング ☐ 杭振杭 ☐ リバースサーキュレーション ☐ アースドリル ☐ ミニアース ☐ BH ☐ 深礎 ☐ 手掘 ☐ 機械掘	杭振杭 日本建築センター認定 第 号 年 月 日

杭仕様 ☒ 施工計画書承認 ☒ 杭施工結果報告書
試験杭 (☐ 有 ☒ 無) (☐ 打ち込み, ☐ 載荷) 本

杭径 (mm)	杭種	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

別図参照

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

- ☒ コンクリートは JIS 認定工事の製品とし施工に関しては JASS5 による。
☒ セメントは、JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
☒ 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
☒ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
☒ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記憶及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常 の場合、1 日 1 回以上とし、1 回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて 3 回行い、その平均値を試験値とする。
☒ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5T-603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が 150m^3 をこえる場合は 150m^3 ごと、または、その端数ごとに 1 回を標準とする。一回に採取とする供試体は、適当な間隔をおいた 3 台の運搬車からその必要本数採取する。なお供試体の数量は、特別指示なき場合は、1 回当たり 6 本以上とし、そのうち 4 適用に 3 本を用いる。
☒ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25°C 未満の場合は 150 分、 25°C 以上の場合は 120 分以内とする。

(2) 鉄 筋

- ☒ 鉄筋は JIS G3112 規格品を標準とする。
☒ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。
☒ D19 未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19 以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
☐ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200 箇所を超えるときは、200 箇所ごと) に 1 回行い、1 回の試験は 3 本以上とする。
外観検査 ☐ 有 ☐ 無、引張試験 ☐ 有 ☐ 無、超音波探傷試験 ☐ 有 ☐ 無、
☐ 柱の帯筋 (HOPP) の加工方法は、☐ H 型 (タガ型) ☐ W 型 (溶接型) ☐ S 型 (スパイラル型) とする。
☐ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第 4 条試験機関で行う事こと。

試験機関名
代行業者名

代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(6) 型 枠

- ☒ 材料 合板厚 12mm を標準とする。 ☐

☒ 型枠存置期間

種類 部位 セメントの種類 在留期間の経過	せき板				支 柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下	はり下		
コンクリート の 硬化 日	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種
	15℃以上	2 3	4	6	8	17	28	28
	5～15℃	3 5	6	10	12	25	28	28
コンクリートの 圧縮強度	5℃未満	5 8	10	16	15	28	28	28
	50kg/cm ²		設計基準強度の 50%		設計基準強度の			
						85%	100%	

- 注) 1 片持ばり、庇、スパン 9.0m 以上のはり下は、工事監理者の指示による。
- 注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他ののはりの場合も原則として行わない
- 注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
☐ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☐ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
☐
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの
☐ 製作工場 ☐ 製作要領書 ☐ 工作図 ☐ 施工計画書
☐ 建設省告示第 1103 号による認定工場 (大臣認定 グレート登録 ランク)
☐ 材料規格証明書または試験成績書
☐ 鋼材 ☐ 高力ボルト ☐ 特殊ボルト ☐ スタッダボルト
☐ 社内検査表 ☐
- (3) 工事監理者が行う検査項目
(☒ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
☐ 現寸検査 ☐ 組立・開先検査 ☐ 製品検査
☐ 建方検査 ☐
- (4) 接合部の溶接は下記によること
☐ 東京都アーク溶接工事管理規程 (建築構造設計指針第 12 章)
☐ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱 (建築構造設計指針第 12 章)
☐ 日本建築学会「溶接工作規程、同解説 I, II, III, IV, V, VI, VII, VIII, IX」
- (5) 接合部の検査
☐ 要接部の検査 (検査結果は後日本工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		社 内	第三者	工事監理者	
☐ 突合せ溶接部 ☐ ☐	超音波探傷試験	% 個	% 個	% 個	
	外観 (目視) 検査	%	%	%	
	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

- ☐ 高力ボルトは「JIS B1186 の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径 2 倍以上の範囲でショットブラスト、クラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あさが 50S 以上である場合は、赤さびは発生しないまでよい。
- ☐ 高力ボルトの締付けに使用する機械はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として 2 度締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

(6) 防錆塗装

- ☐ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外
- ☐ の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5621、2 回塗り を標準とする。
現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工事塗装と同じ錆止めペイントを使用し 2 回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

- ☐

7. 設備関係

- ☒ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
- ☒ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
- ☒ 床スラブ内に設備配管等を押込む場合はスラブ厚さの $1/3$ 以下とし管の間隔を 5cm 以上とする。

8. その他

- ☒ 諸管庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- ☒ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。

施工方法等計画

- 1 特記なき施工方法は公共建築工事標準仕様書もしくは建築工事管理指針に準ずる
- 2 杭基礎の打撃や圧入に関する措置については建築工事監理指針に準ずる

一級建築士事務所 e-craft.
第 336261 号 中曽根 英明

施 主 印		

niki architects,engineers & consultants

(株)二基設計

1 級建築士事務所登録 169-3024 TEL 098-939-1110 (代)
〒904-2141 沖縄市池原 4-1-30 FAX 098-982-1007

1 級建築士登録番号 第 239237 号

石川 豊

年月日 date

R2/08/15

工事名称 title

中部病院増築工事

図面番号 drawing no.

S- 1

縮 尺 scale

-

図面名称 drawing title

構造設計標準仕様書

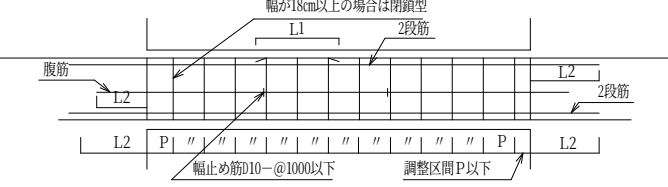
整理番号 arrangement no.

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

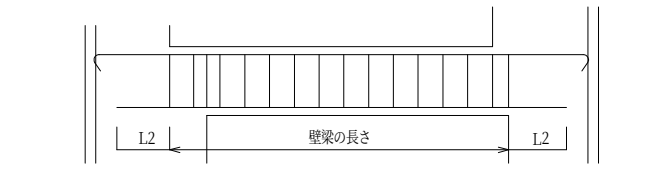
L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7. 壁梁、小梁

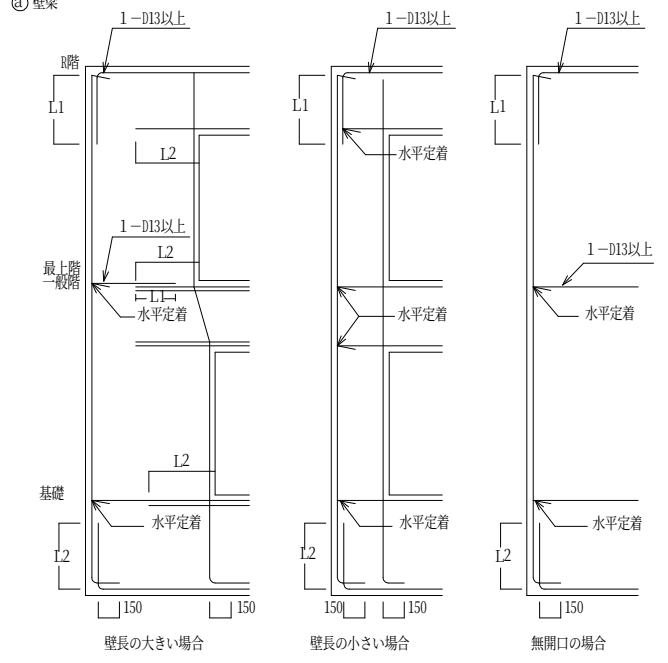
(1) 壁梁の標準配筋図 (断面)



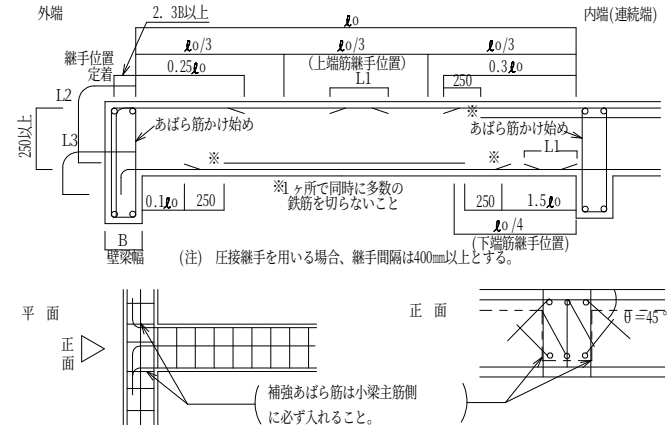
(2) 壁梁の範囲 (断面)



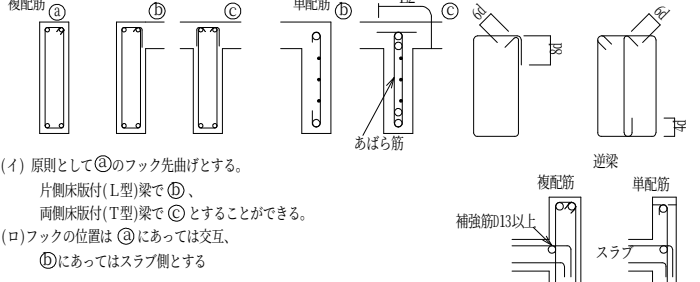
(3) 定着 (断面)



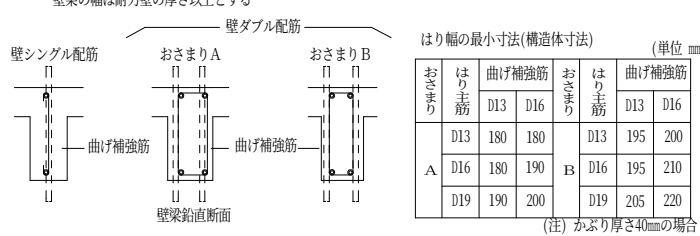
④ 小梁の定着・継手位置およびトップ筋長さ



(4) あばら筋の型

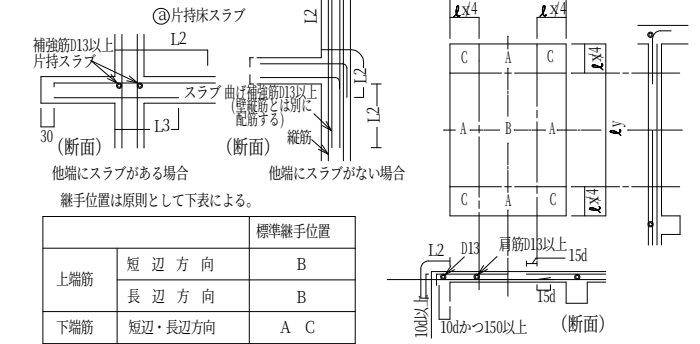


(5) 壁梁と壁のおさまり

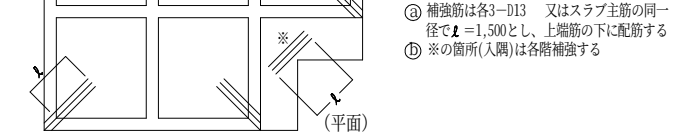


8. 床板

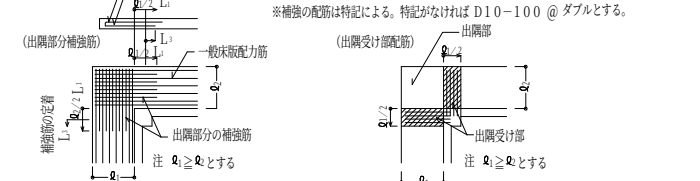
(1) 定着および継手



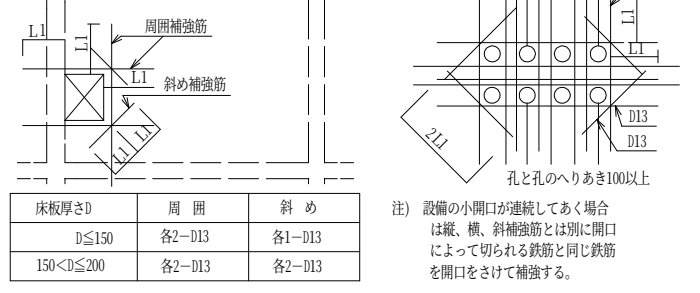
(2) 屋根スラブの補強



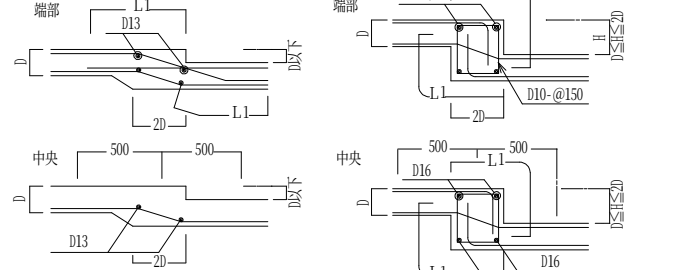
(3) 片持ちスラブ出隅部補強



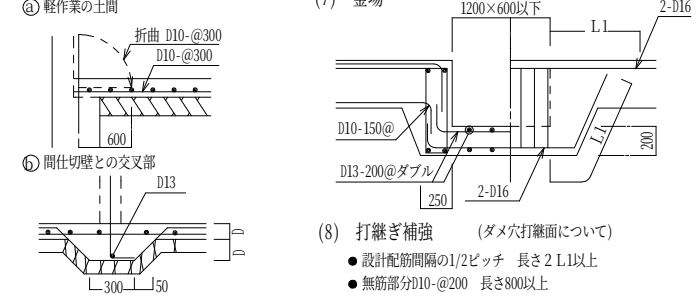
(4) 床板開口部の補強 (断面) (開口の径500mmの場合)



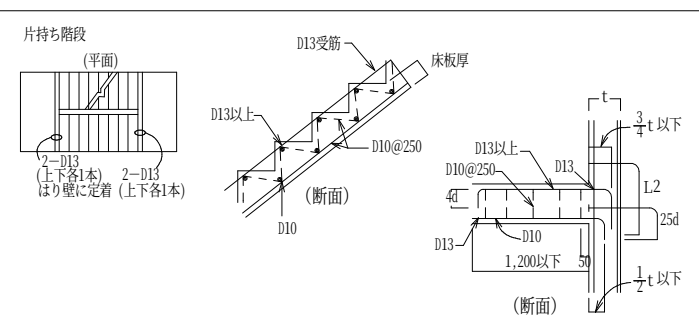
(5) 床板段差 (断面)



(6) 土間コンクリート

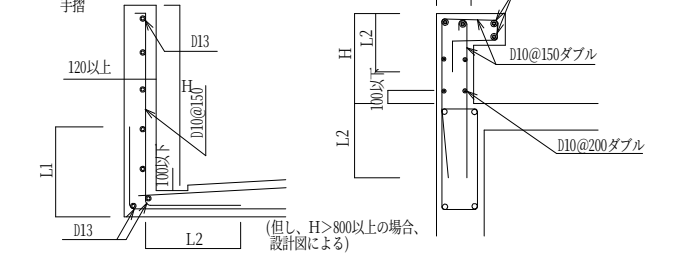


9. 階段

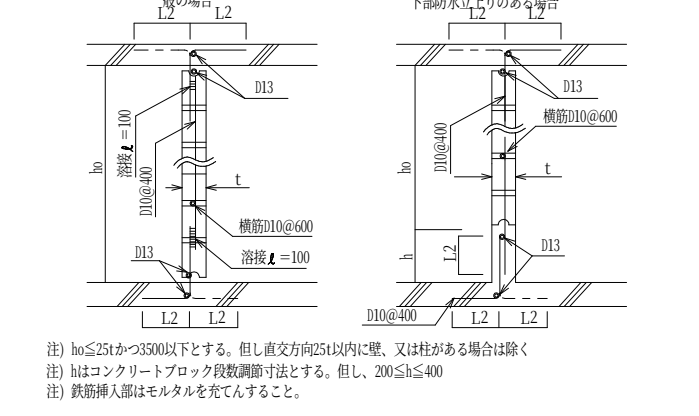


10. その他

(1) 手摺、パラベット (断面)

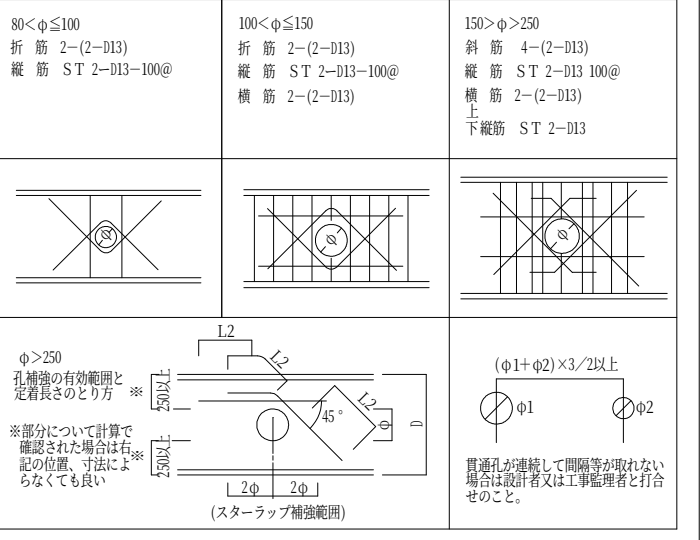


(2) コンクリートブロック縦壁 (断面)



11. 梁貫通孔補強

- (1) 既製品 (使用するときには、設計者又は工事監理者と打ち合せのこと)
■リング型 □パイプ型 □金網型 □プレート型
- (2) 鉄筋標準配筋 但し $\phi \leq D/3$ とする
設置可能範囲 梁端部(スパン $L/10$ 以内かつ $2D$ 以内)は避ける



ボーリング柱状図

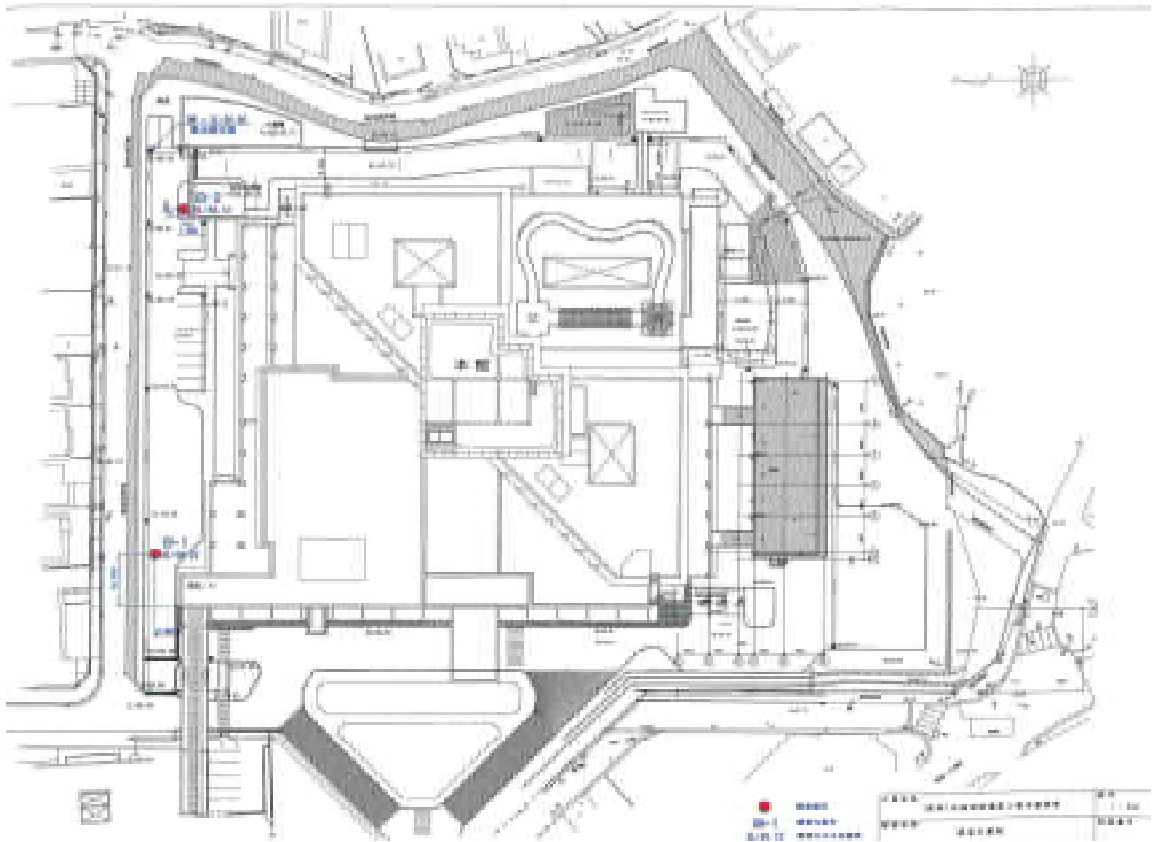
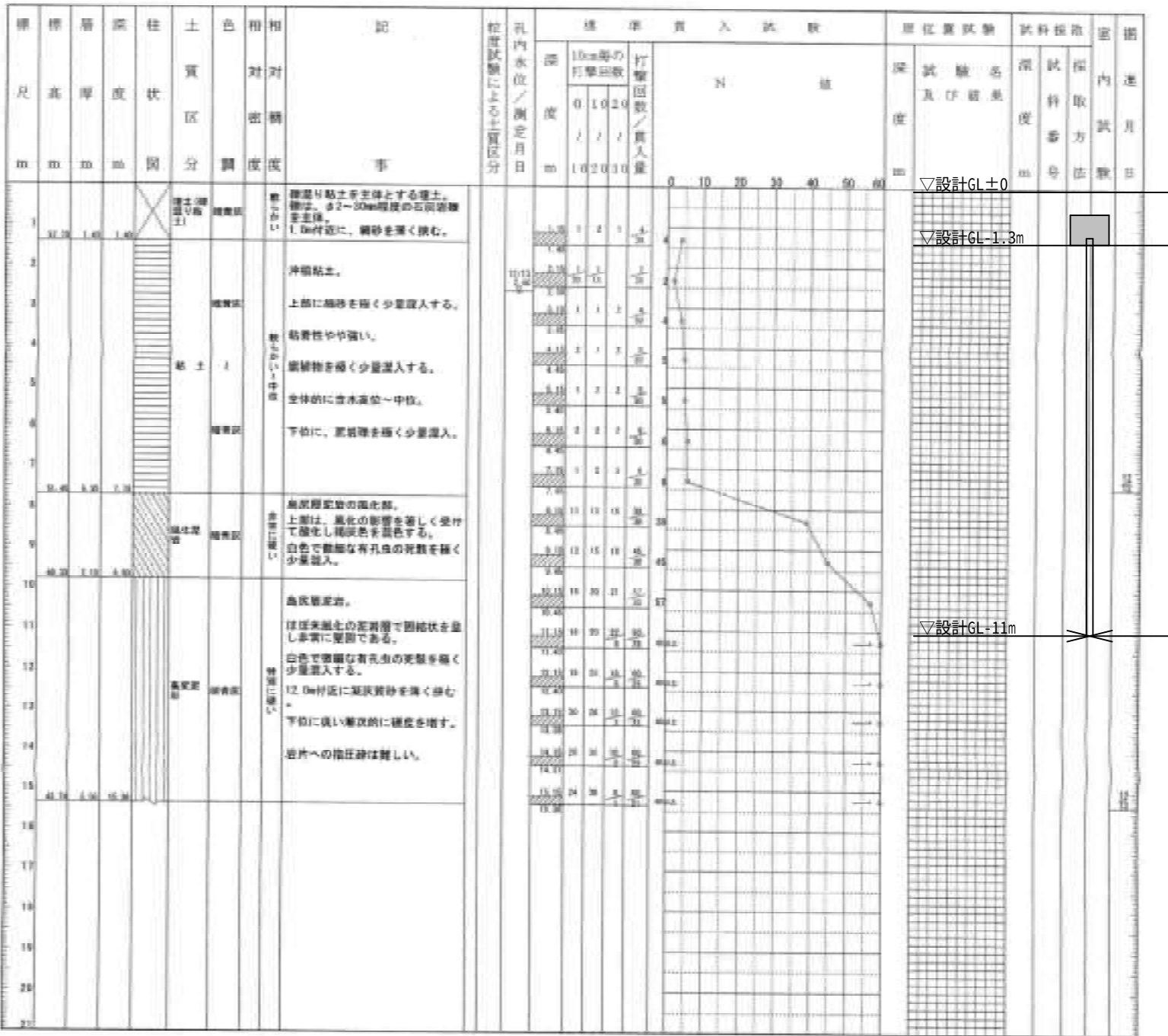
調査名 (設計) 中部病院増築工事地盤調査

事業・工事名

ボーリングNo. 002

シートNo. 002

ボーリング名	B-2	調査位置	沖縄県うるま市宮里281	北緯	12°45'00"
発注機関	沖縄県立中部病院 院長 松本義嗣	調査期間	平成26年12月12日～平成26年12月13日	東経	107°45'00"
調査業者名	(有) 基礎調査事務所 電話 098-888-1643	監理技術者	代表 堀内 孝 副代表 堀内 孝	ボーリング責任者	池上昇吾
孔口標高	EL 59.10m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 東 南 西
総掘進長	15.36m	地盤勾配	使用機	試錐機	YBM-05
			エンジン	ヤンマー	ハンマー 落下器具
				ポンプ	タボタ001



特記事項

- (1) 設計GL ●設計GL=仮BM±0m(未定)
注記：設計GLは、現地にて監督職員と協議の上最終決定すること。
- (2) 支持層はN値55以上の層とし、レベルは現地にて工事仮者立ち合いの上最終決定すること。
(想定する地盤レベルとの誤差は、杭長にて調整する)
- (3) 杭先端は、支持層内へ羽根径以上貫入すること。

一級建築士事務所 e-craft.
第336261号 中曽根 英明

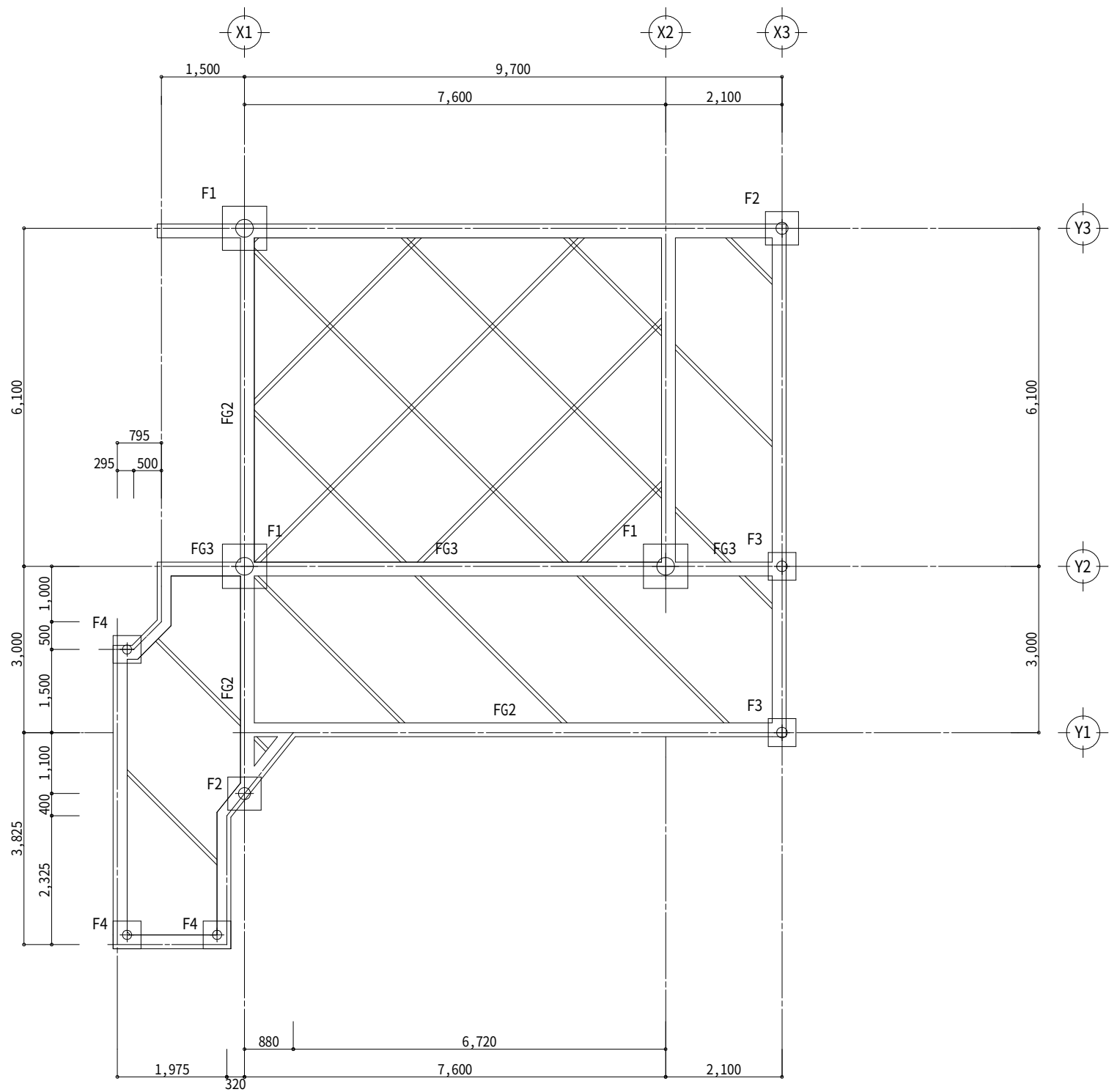
施主印	

niki architects,engineers & consultants
(株)二基設計
1級建築士事務所登録 169-3024 TEL 098-939-1110 (代)
〒904-2141 沖縄市池原 4-1-30 FAX 098-982-1007

1級建築士登録番号 第239237号
石川 豊
年月日 date
R2/08/15
縮尺 scale
-

工事名称 title
中部病院増築工事
図面名称 drawing title
ボーリング柱状図

図面番号 drawing no.
S-4
整理番号 arrangement no.



特記事項 (杭基礎)

特記なき限り下記に依る

1. 見下げ図とする

2. 基礎梁符号はFG1とする

3.  は土間 (DS1) を示す

4.  はシタ'-コン範囲を示す

5. 土間下は水締め後十分に転圧する事とする

6. 土間の短辺が大きい場合は標準図を参照し適宜土間補強を追加する

7. 杭先端はGL-11m付近の島尻泥岩層まで到達させること



一級建築士事務所 e-craft.
第336261号 中曽根 英明

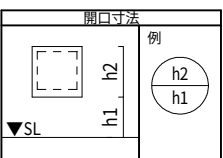
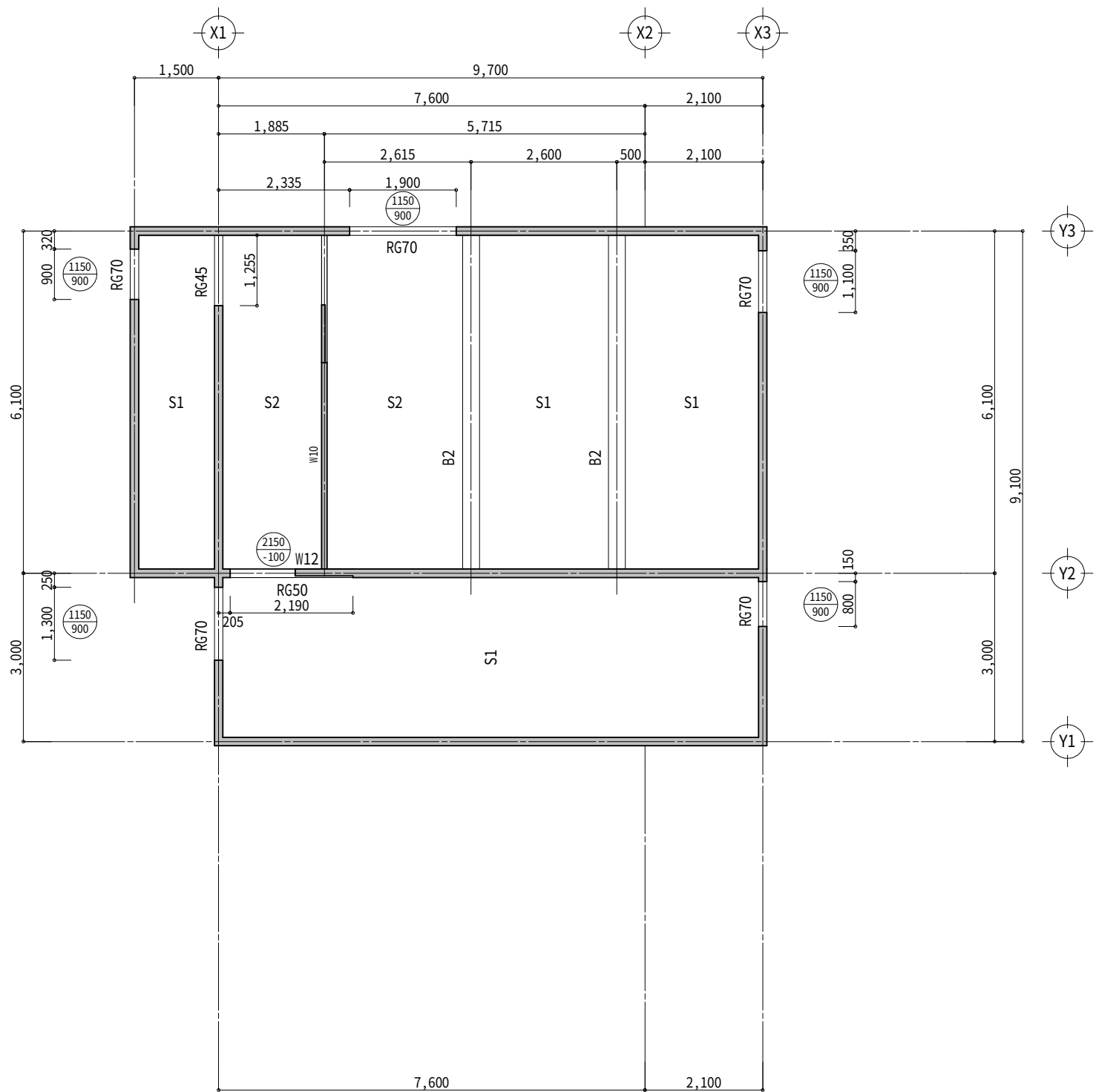
施主印	

niki architects,engineers & consultants
(株)二基設計
1級建築士事務所登録 169-3024 〒904-2141 沖縄市池原 4-1-30
TEL 098 - 939 - 1110 (代)
FAX 098 - 982 - 1007

1級建築士登録番号 第239237号	年月日 date
石川 豊	R 2 / 0 8 / 1 5
	縮尺 scale
	1 / 1 0 0

工事名称 title
中部病院増築工事
図面名称 drawing title
基礎伏図

図面番号 drawing no.
S - 5
整理番号 arrangement no.



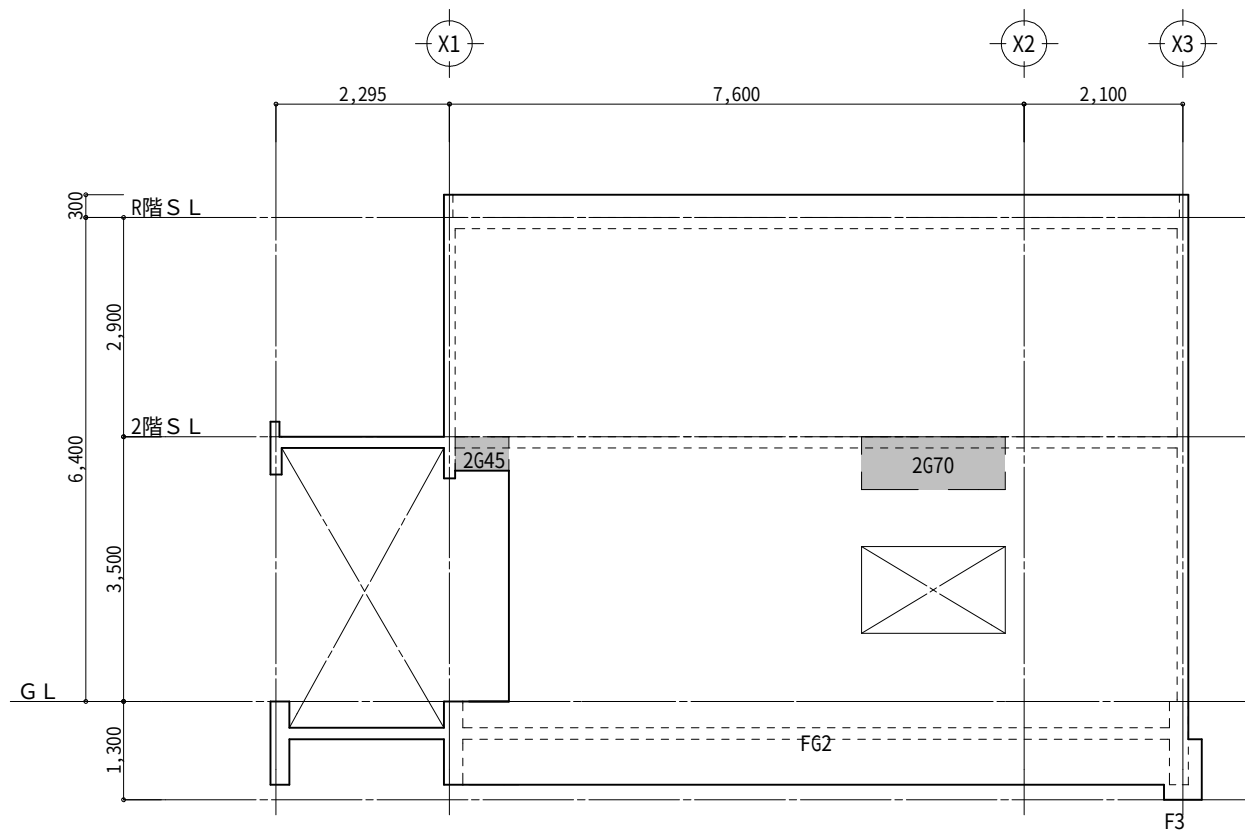
主筋方向

主筋方向

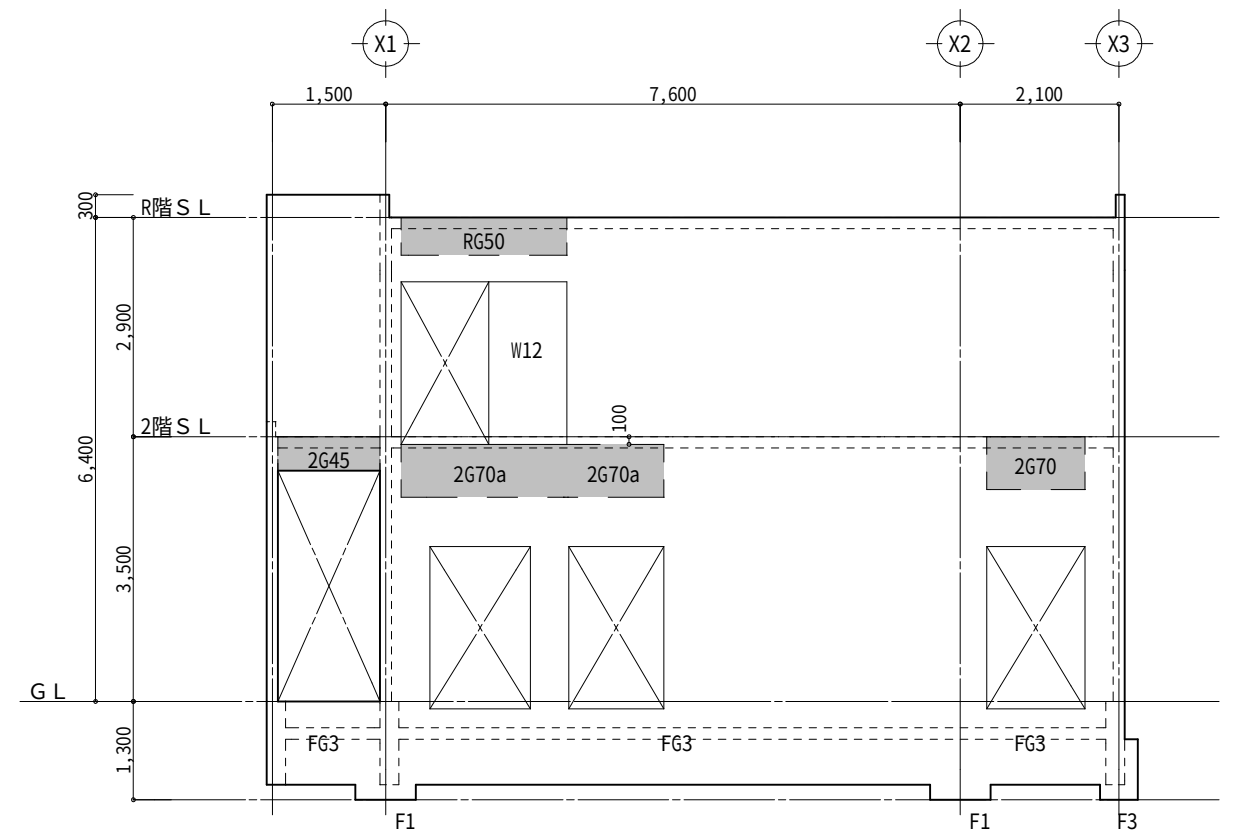
※スラブ符号の向きは主筋方向を示す

- 特記事項 (WRC)
- 特記なき限り下記に依る
1. 見上げ図とする
 2. 一般壁符号はW15とする
 3. 梁天端はSL±0とする
 4. スラブ天端はSL±0とする
 5. 耐力壁補強筋はリストによる

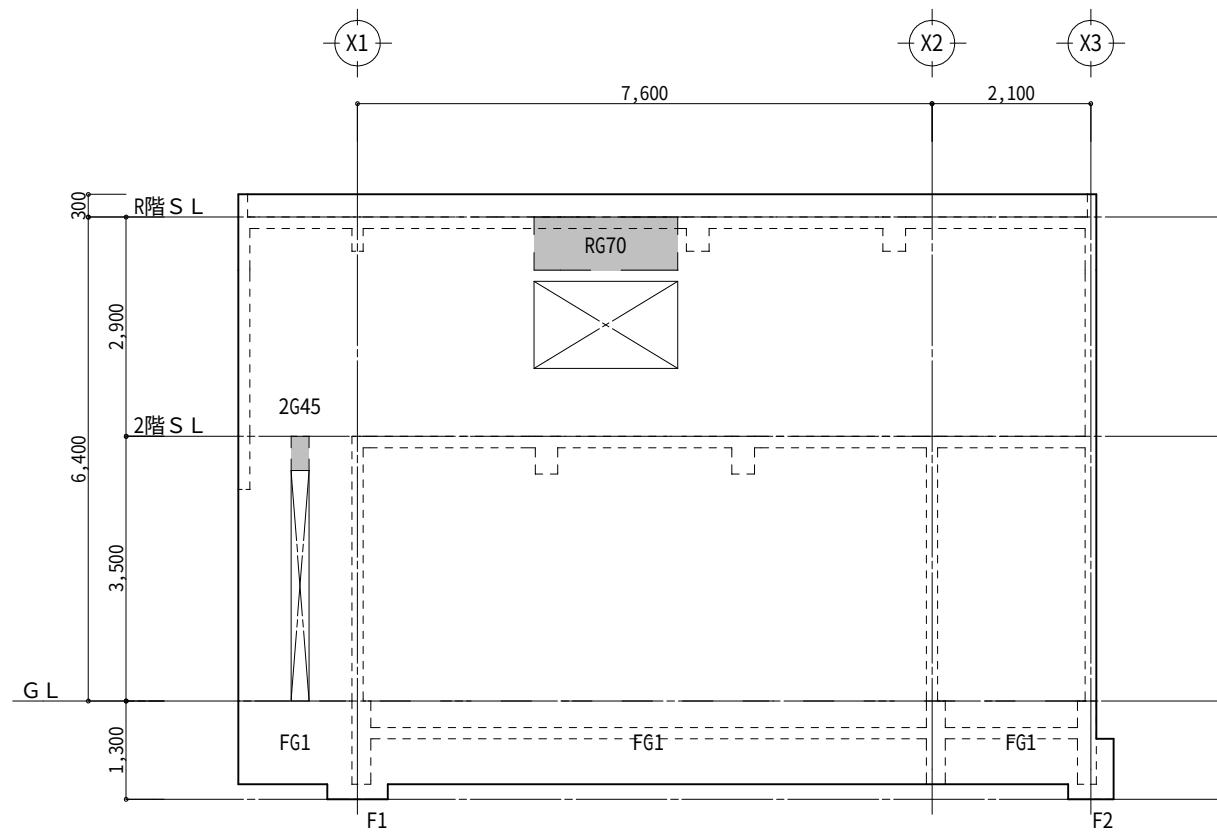
 一級建築士事務所 e-craft. 第336261号 中曽根 英明													
施 主 印				niki architects,engineers & consultants		1級建築士登録番号 第239237号		年月日 date		工事名称 title		図面番号 drawing no.	
				(株)二基設計  1 級建築士事務所登録 169-3024 TEL 098 - 939 - 1110 (代) 〒904-2141 沖縄市池原 4-1-30 FAX 098 - 982 - 1007		石川 豊		R 2 / 0 8 / 1 5		中部 病院増築工事		S- 7	
								縮 尺 scale		図面名称 drawing title		整理番号 arrangement no.	
								1 / 1 0 0		2 階壁 R階 梁 見 上 図			



Y1通り軸組図



Y2通り軸組図

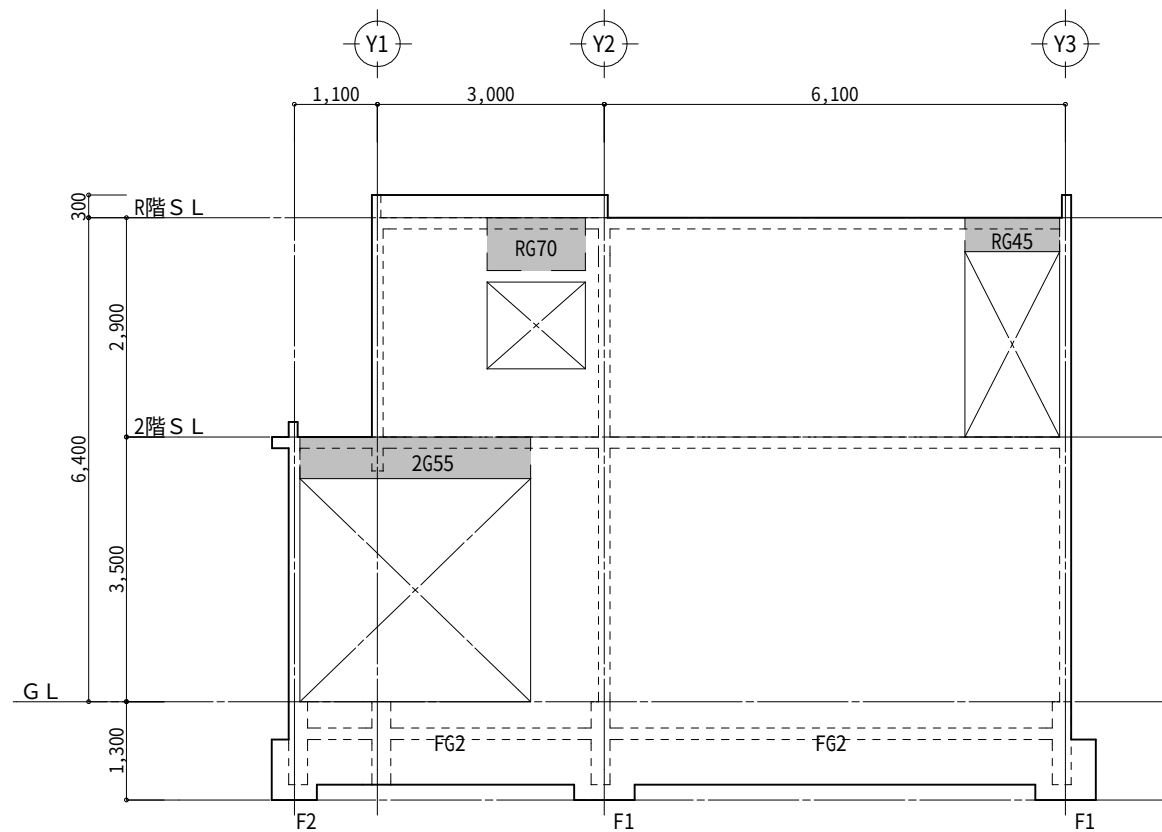


Y3通り軸組図

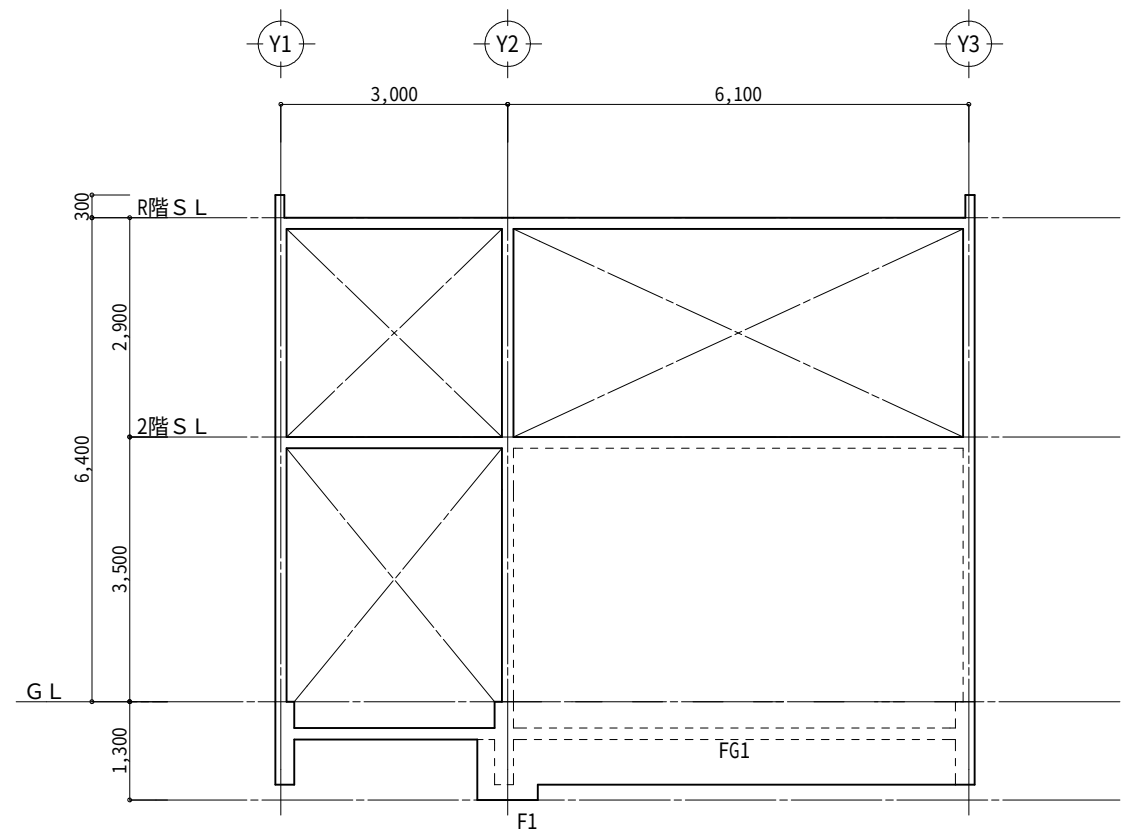
特記事項

1. 特記なき壁符号はW15とする
2. 特記なき耐力壁補強筋はリストによる

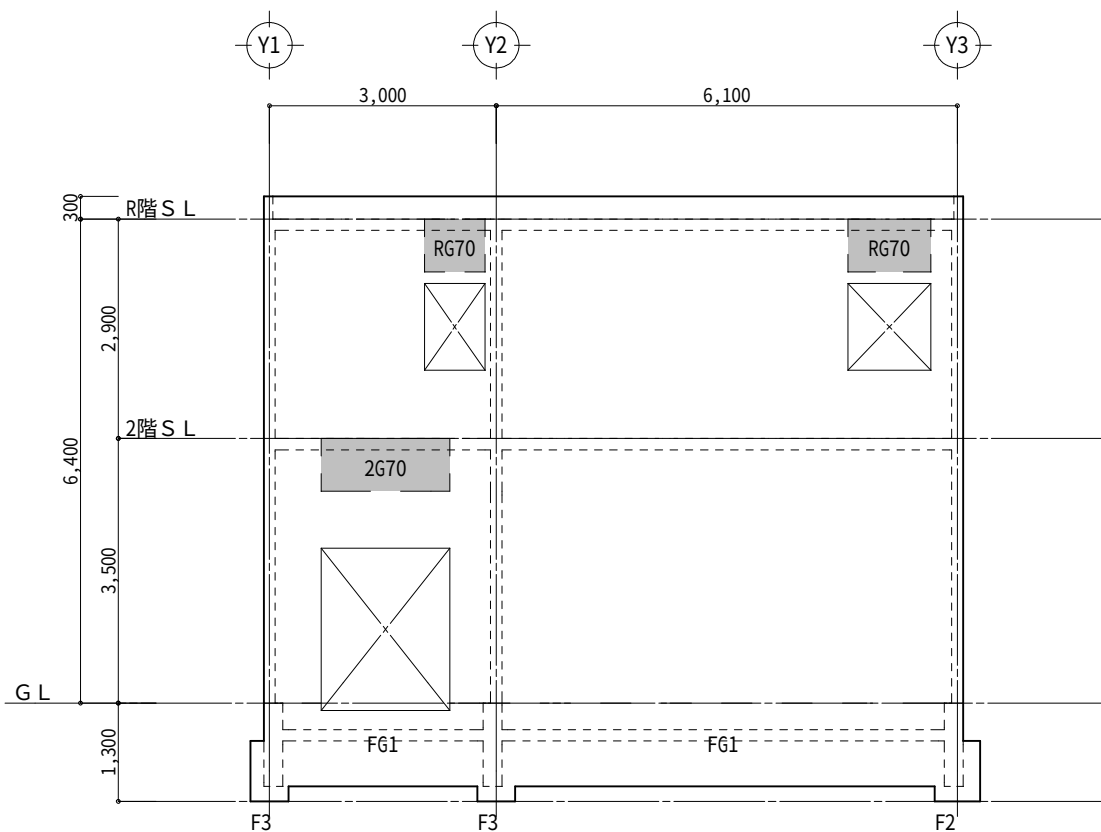
施主印				niki architects,engineers & consultants		1級建築士登録番号 第239237号	年月日 date	工事名称 title	図面番号 drawing no.
				(株)二基設計		石川 豊	R 2 / 0 8 / 1 5	中部病院増築工事	S - 8
				1級建築士事務所登録 169-3024 〒904-2141 沖縄市池原 4-1-30		TEL 098 - 939 - 1110 (代)	縮尺 scale	図面名称 drawing title	整理番号 arrangement no.
				FAX 098 - 982 - 1007			1 / 1 0 0	Y 通 り 軸 組 図	



X1通り軸組図



X2通り軸組図



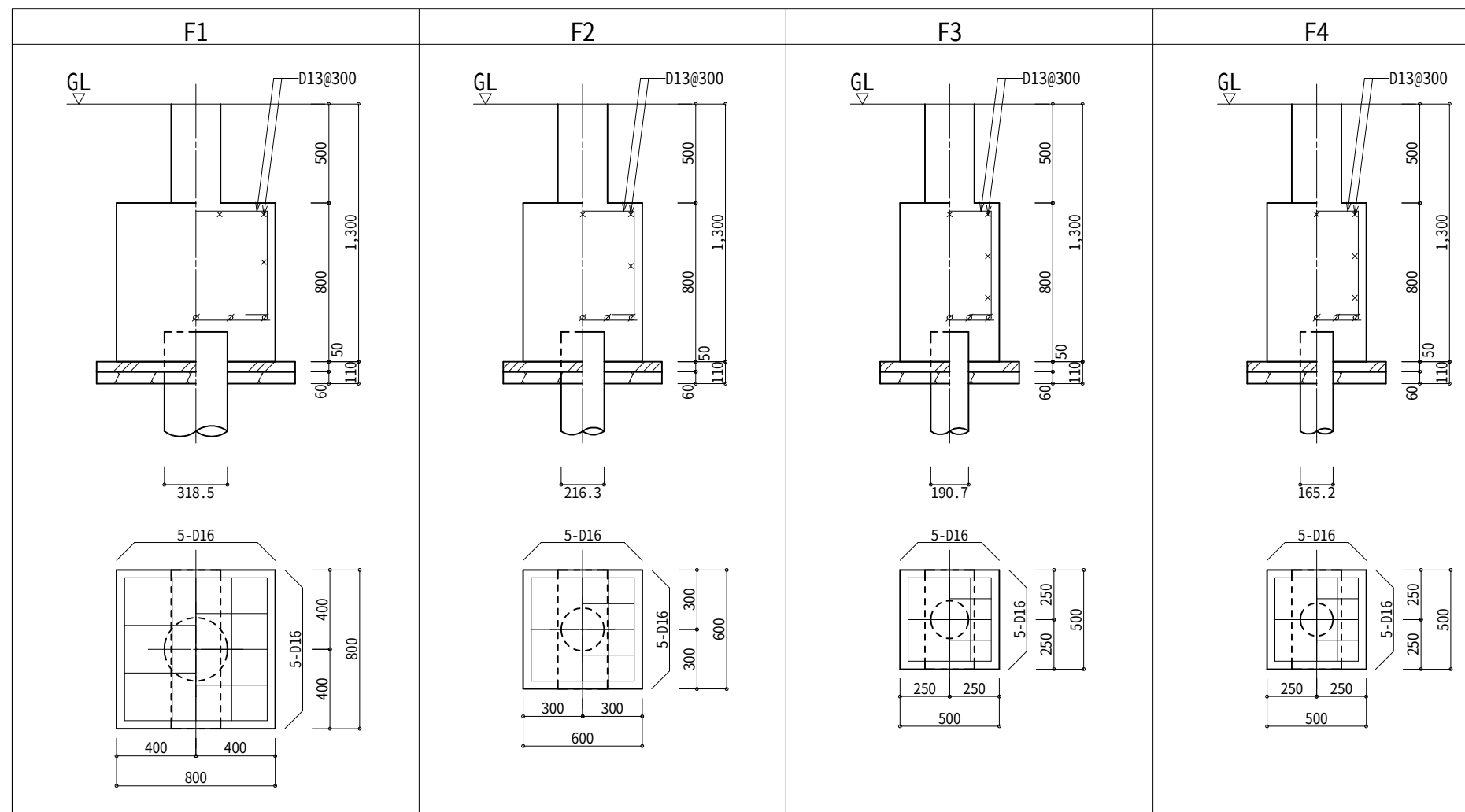
X3通り軸組図

特記事項

- 特記なき壁符号はW15とする
- 特記なき耐力壁補強筋はリストによる

施主印					niki architects,engineers & consultants		1級建築士登録番号 第239237号	年月日 date	工事名称 title	図面番号 drawing no.
					(株)二基設計		石川 豊	R 2 / 0 8 / 1 5	中部病院増築工事	S - 9
					1級建築士事務所登録 169-3024 TEL 098-939-1110 (代) 904-2141 沖縄市池原 4-1-30 FAX 098-982-1007			縮尺 scale	図面名称 drawing title	整理番号 arrangement no.
								1 / 1 0 0	X 通 り 軸 組 図	

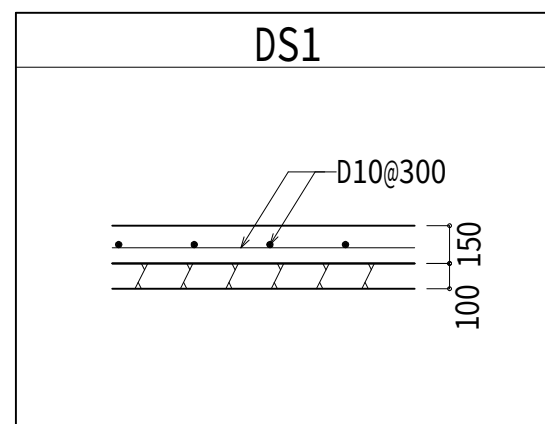
基礎断面リスト 1/30



基礎大梁断面リスト 1/30

符 号	FG1	FG2	FG3
断面図			
B×D	250×1,100	250×1,100	250×1,100
上端筋	2-D19	3-D19	4-D19
下端筋	2-D19	3-D19	4-D19
スターラップ [°]	□ D10@200	□ D10@200	□ D10@200
腹筋	4-D10	4-D10	4-D10

土間断面リスト

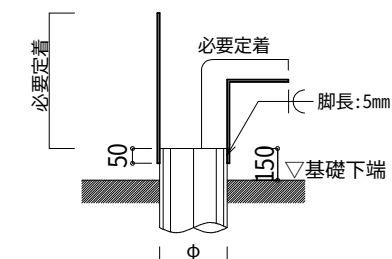


杭 事 項

イシジプラス (P-1)	上杭	STK490	318.5 (10.3)	-	3.7m
	下杭	STK490	318.5 (10.3)	-	6.0m
	先端羽	SM490A	700 (40)		
※3本		長期設計支持力	1096 kN/本		
イシジプラス (P-2)	上杭	STK490	216.3 (8.2)	-	3.7m
	下杭	STK490	216.3 (5.8)	-	6.0m
	先端羽	SM490A	550 (32)		
※2本		長期設計支持力	592 kN/本		
イシジプラス (P-3)	上杭	STK490	190.7 (7.0)	-	3.7m
	下杭	STK490	190.7 (5.3)	-	6.0m
	先端羽	SM490A	450 (25)		
※2本		長期設計支持力	453 kN/本		
イシジプラス (P-4)	上杭	STK490	165.2 (7.1)	-	3.7m
	下杭	STK490	165.2 (5.0)	-	6.0m
	先端羽	SM490A	400 (25)		
※3本		長期設計支持力	352 kN/本		

※最低杭長は5m以上としそれ以下になるような場合は監理者と協議を行う事

鋼管杭 杭頭補強要領図



杭頭補強筋 (P-1) : 6-D13 定着455mm以上

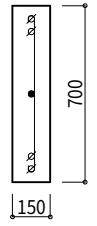
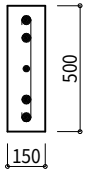
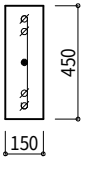
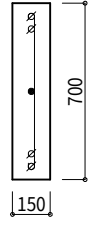
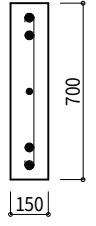
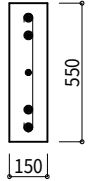
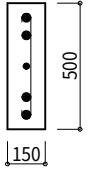
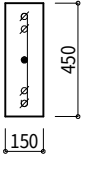
杭頭補強筋 (P-2) : 6-D13 定着455mm以上

杭頭補強筋 (P-3) : 6-D13 定着455mm以上

杭頭補強筋 (P-4) : 6-D13 定着455mm以上

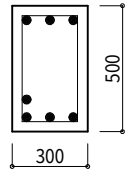
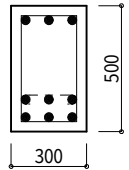
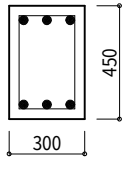
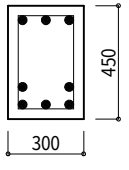
※杭頭補強筋は折り曲げて定着長を確保してもよい

大梁断面リスト 1/30

符 号	G70	G70a	G55	G50	G45
R	全断面 			全断面 	全断面 
B×D	150×700			150×500	150×450
上端筋	2-D16			2-D19	2-D16
下端筋	2-D16			2-D19	2-D16
スターラップ [°]	D10@200			D10@200	D10@200
腹筋	1-D10			1-D10	1-D10
2	全断面 	全断面 	全断面 	全断面 	全断面 
B×D	150×700	150×700	150×550	150×500	150×450
上端筋	2-D16	2-D19	2-D19	2-D19	2-D16
下端筋	2-D16	2-D19	2-D19	2-D19	2-D16
スターラップ [°]	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200
腹筋	1-D10	1-D10	1-D10	1-D10	1-D10

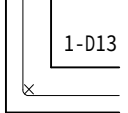
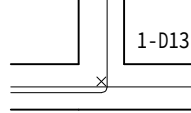
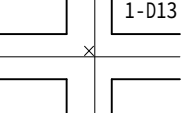
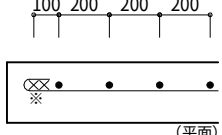
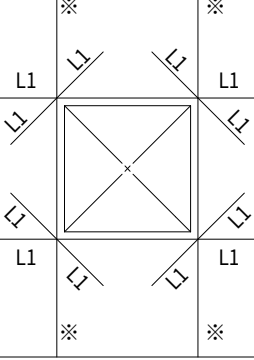
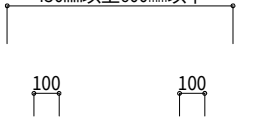
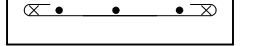
大梁特記事項(全部材共通)
1. 壁梁のせいはリストの数値以上を確保する事とし腰壁や垂壁があればせいを大きくしていいものとする。

小梁断面リスト 1/30

符 号	B1		B2	
断面図	端部 	中央 	端部 	中央 
B×D	300×500	300×500	300×450	300×450
上端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19
下端筋	4-D19	6-D19	3-D19	5-D19
スターラップ [°]	□ D10@200		□ D10@200	
腹筋	—		—	

壁断面リスト 1/30

符 号	W15	W12	W10
断面図			
壁厚	150	120	100
縦筋	D10@200(シングル)	D10@200(シングル)	D10@200(シングル)
横筋	D10@200(シングル)	D10@200(シングル)	D10@200(シングル)
開口補強	縦筋	1-D13	1-D13
	横筋	1-D13	1-D13
	斜め筋	—	—
備考	耐力壁	雑壁	雑壁

耐力壁の曲げ補強筋（特記がない場合）	耐力壁開口補強筋要領図	縦せん断補強筋補強要領
(a) L型交差部（単配筋）  (b) T型交差部（単配筋）  (c) +型交差部（単配筋）   I型端部 開口補強筋縦筋	 開口補強筋縦筋は曲げ補強筋兼用とするので定着方法は通し筋とする。 3. 耐力壁 を参照 （図面 S-2）	450mm以上600mm以下  (平面)  壁長が600mm以下の壁は曲げ補強筋を除き3本以上の縦筋を配置する事

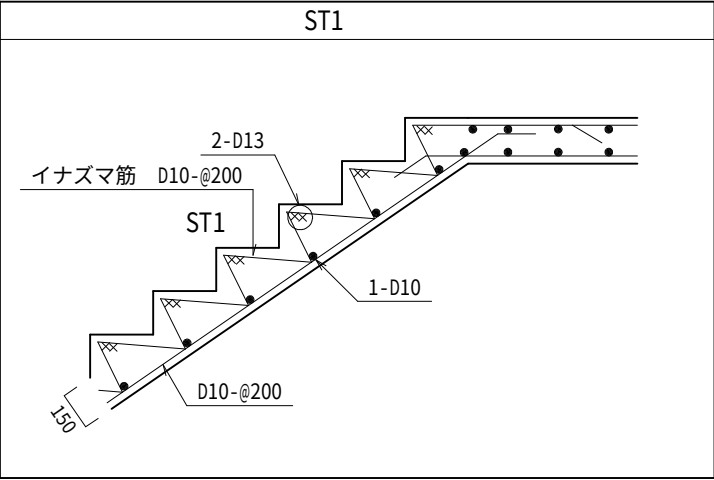
スラブ 配筋リスト

符 号	厚 さ	位 置	短辺方向			長辺方向			備考
			端部	中央	柱列帯	端部	中央	柱列帯	
S1	150	上端筋	D10D13@200	≡	≡	D10@200	≡	≡	
		下端筋	D10@200	≡	≡	D10@200	≡	≡	
S2	150	上端筋	D10D13@200	≡	≡	D10D13@200	≡	≡	
		下端筋	D10@200	≡	≡	D10@200	≡	≡	

片持ちスラブ 配筋リスト

符 号	厚 さ	位 置	主筋方向	配力筋方向	備考
CS1	150	上端筋	D10D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	

階段配筋詳細図



一級建築士事務所 e-craft.
第336261号 中曽根 英明

施 主 印	

niki architects,engineers & consultants
(株)二基設計
1 級建築士事務所登録 169-3024 〒904-2141 沖縄市池原 4-1-30
TEL 098 - 939 - 1110 (代)
FAX 098 - 982 - 1007

1級建築士登録番号 第239237号
石川 豊

年月日 date
R 2 / 0 8 / 1 5
縮 尺 scale
1 / 3 0

工事名称 title
中部病院増築工事
図面名称 drawing title
断面リスト3

図面番号 drawing no.
S - 12
整理番号 arrangement no.